

個別受注型製造業向け 余計な図面を描かない！ モジュール化設計手法入門

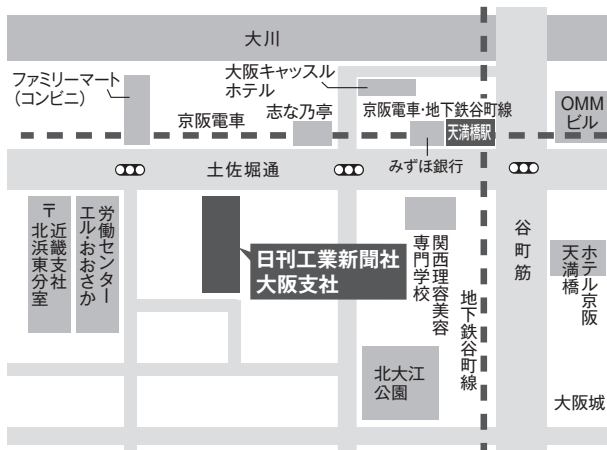
新規図面を最少限に抑え、設計工数を最少化しよう！

日時 2021年1月22日(金) 10:00~17:00 (9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

会場 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場 大阪市中央区北浜東 2-16

受講料 44,000円(資料含む、消費税込) ※同時複数人数のお申し込みは2人目から39,600円
※追加申込の際は備考欄に「複数割引適用希望」とご記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となる場合がございます。予めご了承ください)

大阪会場 (日刊工業新聞社 大阪支社10階)
大阪市中央区北浜東2-16 TEL:06(6946)3382



*天満橋駅(京阪電車、地下鉄谷町線)下車徒歩3分
■新大阪駅から地下鉄御堂筋線(新大阪→淀屋橋)北側出口 乗換、
京阪電車(淀屋橋→天満橋)西改札口
■大阪駅から地下鉄谷町線(東梅田→天満橋)北側2番出口
※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。

セミナー申込を検討中の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症に伴うセミナー開催及び対応について、弊社WEB
サイトにてご確認ください。

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/view/3693>

受講にあたり

開催決定後、受講票並び請求書をご郵送いたします。
申込者が最少催行人数に達していない講座の場合、開催を見送りとさせて頂く
場合がございます。(担当者より一週間前を目途にご連絡致します。)

お申し込み方法

ホームページ (<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>) または、
下記申込書をご記入のうえFAXにてお申し込みください。

受講料

セミナー開催日1週間前までに銀行振込にてお支払いください。
振込手数料は貴社でご負担願います。

キャンセルポリシー

開催日1週間前までの受付とさせて頂きます。1週間前までにご連絡がない
場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。

申込・問合せ

日刊工業新聞社 総合事業局 セミナー事業部
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215

受講 申込書

1/22 モジュール化

お申し込みは

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>

会社名	フリガナ	業 種	
氏名	フリガナ	TEL	
	部署・役職	FAX	
所在地	〒	E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/>
備考			

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

No.202208

開催主旨

企業規模や取り扱う製品の分野を問わず、製造業の設計部隊は人手不足で大変忙しい状況です。働き方改革が叫ばれる中、設計の品質を落とすことなく残業を削減するためには、とかく、「余計な図面を描かない」設計工数を削減することに尽きます。

多くの設計技術者は、新規で設計をする際、ゼロから設計をするのではなく、過去の図面を一部流用しております。過去に製品化された図面は品質面の検証がなされたものであり、流用しての設計には一定の合理性があります。しかしながら、流用元の選定を間違えた結果、作成する必要がない余計な図面が増えていきます。形状が少し違うなどの図面が図番違いでたくさん存在する。そんな状態になってしまっている企業が少なくありません。

似たような図面が増えることは、混乱の元であり、ムダな設計工数・残業の温床です。

そこで、本セミナーでは設計工数の最少化、余計な図面を描かないことをめざし、【過去に設計した製品の「コア技術」の見える化】、【コア技術を使用するモジュール化設計の考え方】、【モジュール化を通じて削減された工数と余裕時間での新規設計部の品質確保の方法】と、設計の全プロセスに対しての設計改革の進め方を解説し、グループワークを通じて、体得いただきます。

ぜひ、【モジュール化設計】のノウハウと【品質確保】の手法を通じて、余計な図面を描かない、設計工数の削減を達成してください。

※当セミナーを受講される方には、受講者特典としまして、講師著書「実践！モジュール設計」（日刊工業新聞社）を、当日無料進呈します。



講師

(株)A&Mコンサルト 取締役 経営コンサルタント **中山 聡史 氏**

【略歴】 関西大学機械システム工学科を卒業した後、トヨタ自動車(株)に入社。エンジン設計および開発、品質管理、環境対応業務などに従事し、ほぼすべてのエンジンシステムに関わる。また、海外での走行テストなども経験する。2011年、A&Mコンサルトに入社。「モノ造りのQCDの80%は設計が決まる!」の理念のもと、多くのモノづくり企業で設計業務改革を推進する。例えば、機械設備産業会社「A社」においては3DCAD導入に伴う設計業務改革コンサルティングに当たり、モジュール化による出図納期50%改善などの成果を、機械設備産業会社「B社」においては、デザインレビュー(DR)の仕組の構築および定着などに当たり、設計不良件数20%低減などの成果をそれぞれ上げている。そのほか品質・製造改善や生産管理システムの構築も得意とする。

プログラム

1. 現状の間違った設計のやり方
(編集&流用設計による問題点)
2. 間違った設計のやり方によって発生する品質問題
3. 品質問題から考える間違った設計方法
 - 3-1 間違ったモジュール化
 - 3-2 間違った変化点管理
 - 3-3 バックローディング
4. 設計改革方法
 - 4-1 フロントローディング
 - 4-2 あるべき設計プロセス
 - 4-3 コア技術・モジュール化・変化点管理
5. コア技術の見える化
 - 5-1 コア技術の必要性
 - 5-2 コア技術の定義
 - 5-3 コア技術の体系化
 - 5-4 コア技術の事例紹介
6. 最新モジュール化手法
 - 6-1 モジュール化の基本概念
 - 6-2 モジュール化のメリットとデメリット
 - 6-3 モジュール化の時代の変遷と現状の考え方
 - 6-4 モジュール化事例紹介
- 6-5 モジュール化の進め方
- 6-6 ~演習：大流行した小型モーター動力自動車プラモデルをモジュール化し、理解を深める~
7. 変化点管理手法
 - 7-1 モジュール活用部分と新規部分の抽出方法
 - 7-2 変化点管理方法
 - 7-3 新規設計部分での問題抽出DRBFM
 - ① DRBFMの定義、誕生の経緯
 - ② DRBFMの構成
 - ③ DRBFMの検討内容
 - ④ DRBFMの内容
 - 7-4 ~演習100円ライターを用いた問題の未然防止~



実際のセミナー風景
~演習を通じて実務に活かせるイメージをつかんでいただきます~